

【表2-5 削りかけ資料：近畿】

地域	時期	名称	製作			形状			用途 ほか	表象物	文献	
			材の樹種	伐採時期	製作道具	削り	組合せ	その他				
三重県												
松阪市	安楽町	小	イライラ棒	<チチブ(山いちじく)>	—	—	?※	—	—	嫁(男児が新嫁の家を門付、囃しながら嫁を叩く<どんど祝い>)／※昭和初期で廃絶 ※木の「皮を向かいあわせにそいで」作る	—	1
尾鷲市	九鬼町	小	モチゾエ	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	—	—	供(神棚)→竈<クド>にくべる	—	2
	早田町	小	モチゾエ	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	—	—	供(便所神なども含めた家中の神棚)	—	2
熊野市	須野町	小	モチギ	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	—	—	供(荒神さん・仏壇)→15日の小豆粥、16日のぜんざいを炊く際にくべる	—	2
	甫母町	小	モチヅキ	—	—	—	○	—	—	供(仏壇・墓前)	—	2
	遊木町	1・8	(花)	<ソモソモ(柏)>	—	—	○	2本1組	—	供(8日<メシモチ・鯨の供養>、前日作っておいたソモソモの木の棒を神様・仏様・夷様に供える)／※2段に削る	—	3
	新鹿町	小	(カシワの棒)	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	—	—	供(床の間)→ぜんざいを炊く際にくべる	—	2
		小	デンズリボ	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	2本1組	—	供(仏壇)→供(墓)／※デンズリはスリコギのこと	—	2
	新鹿町(甫本)	小	レンズリ棒	—	—	—	○	—	—	ぜんざいの豆を焚くときにくべる	花	3
	波田須町	小	タボテ	アカメガシワ<カシワ>	—	—	○	—	—	供(神棚)→成木(「たあぼてたあぼて」と言いながら果樹を叩く)→木の股にタボテを掛け置く	花	2
	波田須町(東)	小	(タボテ)	<タボテ(柏)>	—	—	○	—	—	供(神様の数だけ作り、供える)→粥を付けて成木に立てかける。<タボテ(柏)正月>という	—	3
	波田須町(矢賀)	小	(ハナ)	<カセバ(柏)>	—	—	○	—	頭部十字	成木(成木を叩いてそこにそのまま置いておく)／※頭部には雑煮か何かお供えした	—	3
	育生町(尾川)	小	削り花	—	—	—	○	—	—	(詳細不明)	—	3
	育生町(粉所)	小	(削り掛けの棒)	—	—	—	○	—	—	粥を混ぜる	—	3
	井戸(瀬戸)	小	タモテ	<柏>	—	—	○	—	—	成木(子供が「タモテタモテ」と唱えながら成木を叩く)／15日を<タモテ>と呼んだ	—	3
	井戸(岡地)	小	(削り花)	<ハゼノキ>	—	—	○	—	—	成木(「タモテタモテ」と唱えながら柿を叩き、粥を供える)	—	3
有馬(山崎)	小	カシバ	<カシバ(柏)>	—	—	?	—	—	供(床)／この日を<ハラミショウガツ>といった	—	3	
金山(里)	小	(ハナ)	<カシバ(柏)>	—	—	○	—	頭部十字	成木(子供達が柿を叩いてそこにそのまま供える)／※頭部には雑煮か何かお供えした	—	3	

【地域】 【時期】 【名称】 【材の樹種】 【伐採時期】 【製作道具】 【削り】 【組合】 【その他特徴】 【用途】 【表象】 【文献】

和歌山県

花園村	上郷	修正会	木花	ヤマハゼ・ 〈青楓※〉	年末	—	○	〈四手の 木※〉に 付ける	—	飾(1月3日の修正会〈正月送り・正月のおコナイ〉の際、内陣に飾る)→〈木花獲り〉/※青楓=ウリハダカエデ、四手=アカシデとされる	花	1
	峯手	1・6	削り花	—	—	—	—	—	—	飾(1月6日のオコナイの際に堂に飾る)	花	2
中津村	下田原	1・2	ゴースン (牛玉木)	〈ハゼ =ウルシ〉	12・13	—	○	2本1組	頭部十字	地藏堂での〈ドウド(3歳児の村入り儀式とされる)〉に持参し、堂の床を突く。供えた白米と串柿を牛玉紙に包み、牛玉木の頭部に挟み持ち帰る→15日の小豆粥を炊く際、白米と串柿は一緒に鍋に入れ、牛玉木の1本を薪として焚く。もう1本で成木を叩く→仏壇に供えておき、後に苗代の水口に立てる/※削り花にし、2本を葛で結ぶ	—	2
有田市	(旧有田町)	小	大根(福杖)	ネムノキ	(貰う)	—	△	—	頭部刻む	1月3日の御堂のおコナイで貰った福杖の頭部を数多に割り、削り落とした木片を挟んで大根葉に見立てる(〈大根を作る〉)。これを大根畑に立て、小豆粥を供えて祀る	作物	3
田辺市	(旧田辺領)	小	祝いそ	〈椎〉・〈檜〉	(生木を使用)	—	○	—	—	嫁(14日晚～15日にかけて往来で女性の尻を打つ)/※刀のツバを削りかけにする	刀	4
太地町	(字不明)	小	ドンド(削掛)	タラノキ 〈ダーラの木〉	—	—	○	—	※	男児の誕生を祝し、親類の者が〈ドンド〉に祝儀袋を縛り付けて贈る/※三宝・海老等を描く	—	5
		山仕事始	ケズリバナ	—	—	—	○	—	平板状	供(山仕事を始める際〈山入り〉に、立派な木の根元に米・塩・ジャコ(煮干)などと共に供え、山の神を祀る)	—	6